

2026年4月19日(日)
13:00-18:00

庭園アーカイブ・プロジェクトでは、刻一刻と変化してゆく日本庭園に対して種々のテクノロジーを用いることで、アーカイブの研究開発を進めてきました。また、そこでは単なる技術開発のみならず、日本庭園とは何か、といった本質的な問いを重視してきました。

プロジェクト・メンバーのエマニュエル・マレスと澤崎賢一は、これまで庭師を対象とした映像作品の制作を行ってきました。2016年には、フランスの庭師にして哲学者のジル・クレマン氏の来日を追ったドキュメンタリー映画「動いている庭」を発表しました。クレマン氏の同名の著作『動いている庭』は、日本でも今日ますます盛んに読まれています。

また、近年は日本の庭師・古川三盛氏を対象とした映像作品「語りかける庭」の制作を進めており、かたちを変えながら日本各地で展示・上映を実施してきました。

クレマン氏と古川氏は、奇しくも同じ1943年の生まれです。フランスと日本の二人の庭の巨匠。彼らの語り、そして庭を捉えた映像を並置させることで、クリシェに満ちた比較論にとどまらない、よりグローバルな広い視野での新たな庭園、自然、エコロジーの思想があらわになります。

今回のイベントでは「動いている庭」と「語りかける庭」を同時上映した上で、当プロジェクトのメンバーでもあるサウンド・アーティスト、音響学者の城一裕、さらにゲストとして美学・芸術学、視覚文化論をフィールドとする増田展大を迎え、庭を出発点にあらゆる分野を横断するディスカッションを行います。

なお、各上映の前後、合間には、会場の21chの立体音響システムにて庭園アーカイブ・プロジェクトがこれまでにアーカイブしてきたアンビソニックス(立体録音)音源を「上演」します。ぜひご鑑賞ください。

「動いている庭」から 「語りかける庭」へ

入場無料

*要予約

九州大学大橋キャンパス
音響特殊棟録音スタジオ



〒815-8540 福岡県福岡市南区塩原4丁目9-1

上映とディスカッション

「動いている庭」から 「語りかける庭」へ

プログラム

第1部 13:00 アンビソニックス庭園音源上演
14:00 映画「動いている庭」上映
15:30 アンビソニックス庭園音源上演

第2部 16:00 映像作品「語りかける庭」上映
16:50 ディスカッション
17:30 アンビソニックス庭園音源上演

登壇者

エマニュエル・マレス

京都産業大学文化学部准教授

澤崎 賢一

アーティスト・映像作家、総合地球環境学研究所特任助教

城 一裕

九州大学芸術工学研究院准教授

ゲスト

増田 展大

九州大学芸術工学研究院准教授

司会

原 瑠璃彦

静岡大学人文社会科学部准教授、庭園アーカイブ・プロジェクトリーダー

プロフィール

Emmanuel Marès エマニュエル・マレス

1978年、フランス出身。京都工芸繊維大学博士後期課程修了、博士(学術)。専門は日本建築史・日本庭園史。主な著書に『縁側から庭へ』(あいり出版)、編著に『庭師と旅人「動いている庭」から「第三風景」へ』(同)等。

澤崎 賢一 さわざき・けんいち

1978年生まれ。京都市立芸術大学大学院 博士(美術)。主な展覧会に《見えん さかい目》(HIMOTOKUSABI)《すべてのものとダンスを踊って—共感のエコロジー》(金沢21世紀美術館、2024-25)、映画『#まなざしのかたち ヤングムスリムの窓』(2023)等。

城 一裕 じょう・かずひろ

1977年福島県生まれ。博士(芸術工学)。専門はメディア・アート。現在の主なプロジェクトに、音の再生の物質的・歴史的な基盤を実践を通じて再考する「Life in the Groove」、参加型の音楽の実践「The SINE WAVE ORCHESTRA」等。

増田 展大 ますだ・のぶひろ

1984年京都府生まれ。博士(文学)。専門は美学・芸術学、写真史・映像メディア論。主な著書に『科学者の網膜—身体をめぐる映像技術論：1880-1910』(青弓社、2017年、第9回表象文化論学会賞受賞)等。

原 瑠璃彦 はら・るりひこ

1988年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士(学術)。主な著書に『洲浜論』(作品社、令和5年度芸術選奨文部科学大臣新人賞)、『日本庭園をめぐる—デジタル・アーカイブの可能性』(ハヤカワ新書)等。



ドキュメンタリー映画《動いている庭》

監督：澤崎賢一、製作：エマニュエル・マレス、85分、2016

フランスの庭師ジル・クレマンの庭で過ごした、とある一日を記録した映画。

この惑星は、庭とみなすことができる—パリで行われた展覧会「惑星という庭」で30万人を魅了したフランスの庭師ジル・クレマン。彼は、パリのアンドレ・シトロエン公園の庭やケ・ブランリー美術館の庭をつくったことで知られ、同時に、その背景にある思想が注目を浴びてきた。できるだけあわせて、なるべく逆らわない—これは、クレマンの庭師としての基本的な態度である。この言葉にそってつくられた本作は、日本各地を訪問するクレマンと、彼の自宅の庭をロングショットで記録した民族誌的な映像である。

ウェブサイト：<http://garden-in-movement.com>



映像作品《語りかける庭》

監督：澤崎賢一、製作：エマニュエル・マレス、時間未定、2024

観音寺(京都府福知山市)の庭の作庭をめぐる住職、庭師、美学者の視点の万華鏡。

京都府福知山の観音寺にある庭の作庭にまつわる3つの物語。作庭を依頼した観音寺の住職・小籾実英、作庭を行った庭師・古川三盛、作庭を行う古川を観察した美学者・山内朋樹、そして、この映像作品を鑑賞する私たち—。この庭が「この庭として」そこに存在するためには、それらすべてが関わり合っている。

本作では、ひとつの「庭」を複数の視点から見つめなおすことを可能にする「映像」の錬金術によって、人間による集団的な意思決定を超えた、目に見えない出来事発生の力学が明らかになるだろう。

ご予約

Peatixよりご予約ください。

<https://niwa-260419.peatix.com>



お問い合わせ

ina@niwa-archives.org